

文学部 英文学科

Study



University
of Victoria

Abroad



Program

CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて	1
SA プログラムの単位認定について	2
出発までのスケジュール	3
University College Dublin	4
Fontbonne University(2024 年度は募集していません)	7
University of Victoria	9
SA プログラム参加体験記	11
SA プログラムのサポート体制について	15
英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン	16

スタディ・アブロード（SA）プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。

密度の高い英語の授業と異文化体験によって、

世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。

英文学科には4つのSAプログラムがありますが、目的はそれぞれ異なります。

自分に合ったプログラムを選んで出願してください。

(1) 夏期 SA プログラム (University College Dublin)

アイルランド共和国の首都ダブリンの名門大学 University College Dublin (UCD) での、3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉学意欲を高めることが目的です。

(2) 秋学期 SA プログラム (University College Dublin)

夏期 SA プログラムと同じ UCD での約4か月間または約7か月間の語学研修プログラムです。長期にわたって英語圏で生活し勉強することによって、さらなる英語力アップをめざします。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めることも、大切な目的です。

(3) 秋学期 SA プログラム (Fontbonne University)

アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスにあるフォントボン大
でなく、
カ人学生
国からの
けでなく
め、コミュ
英語だけ
た。アメリ
の人々や他
英語力だ
理解を深
めます。
自国の文化への興味と理解を深め、国際的な視野を持つ
きっかけにすることも、目的の一つです。

(4) 秋学期 SA プログラム (University of Victoria)

カナダにある名門総合大学、ヴィクトリア大学での約4か月間の語学研修プログラムです。優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら英語を学習する

ことで、語学力を向上させるとともに、帰国後の英語と英語文化の学習への意欲を高めることが目的です。また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めます。

■出願資格

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる者
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる者

■選考方法

夏期 SA プログラム (UCD) と、秋学期 SA プログラム (UCD、フォントボン、ヴィクトリア) とでは、選考方法が異なります。

① 夏期 SA プログラム (UCD)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

② 秋学期 SA プログラム (UCD、フォントボン、ヴィクトリア)

応募人数に関わらず、両方とも書類選考と面接試験をおこないます。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉学意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

SAプログラムの単位認定について

英文学科が実施する SA プログラムは 3 カ国 4 コースからなります。

いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、

帰国後に実施される面接や報告会などに出席することにより、

本学の卒業所要単位として認められます。

※詳細は最終頁「英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン」にて
確認してください。

University College Dublin (UCD)

2 つのプログラム（夏期・秋学期）は、いずれもユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン(UCD)の語学研修機関である UCD English Language Academy のプログラムを受講します。

■ 夏期 SA プログラム

8 月に約 3 週間のコースとして開講される Summer Course に参加します。帰国後、所定の手続きや審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置されている「海外英語演習」4 単位が認められます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、「海外英語演習」を履修登録する必要があります。

■ 秋学期 SA プログラム

約 4 ヶ月間か約 7 ヶ月間のコースを受講します。語学力向上のための授業が中心です。そのほか、社会や文化などに関する科目も用意されています。

帰国後、各自が現地で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は 22 単位です。

※コース内容は毎年変更されます。

Fontbonne University

約 4 ヶ月間のプログラムです。フォントボン大学では、正規課程の授業に Intensive English Program 中級コースを履修し、2024 年度は募集していません。

約 4 ヶ月間のコースを受講します。英語力向上を目指したカリキュラムで、自由時間の文化体験活動等も充実しています。

帰国後、ヴィクトリア大学で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は 22 単位です。

University of Victoria

約 4 ヶ月間のコースを受講します。英語力向上を目指したカリキュラムで、自由時間の文化体験活動等も充実しています。

帰国後、ヴィクトリア大学で履修してきた科目を、文学部教授会で審議のうえ、認められた場合は、同系統の専門科目「SA 認定科目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-II」に読み替えて卒業所要単位となります。認定単位数の上限は 22 単位です。

スケジュール

選考年度

10月下旬～11月中旬	説明会
10月下旬～11月中旬	出願期間
11月下旬～12月上旬	選考
	結果発表
	渡航先決定

実施年度

3～5月	ビザ・渡航説明会 事前指導
7～8月	海外旅行保険説明会 危機管理ガイダンス・ 直前ミーティングほか
8月（または9月）	出発
（※夏期 SA に参加希望の1年生は4月に 募集・出願・選考）	

参加決定後～SA 出発までの準備

① パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します（取得費用は各自の負担）。すでにパスポートを持っていたとしても、SA 期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、更新手続きが必要です。

② SA 先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の2月以降）

SA 先大学への入学願書を記入して国際交流課に提出します。その他 SA 先によって必要な書類がありますので順次、準備を進めていきます。

③ ビザ・渡航説明会（実施年度の3月～5月）

SA 参加にあたって学生ビザの取得が必要となるため、ビザ取得に必要な書類の説明をするガイダンスです。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

④ 先輩との交流会（実施年度の3月～6月）

昨年度 SA に参加した学生から、SA 先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます（2023 年度向けについては、最後の先輩が卒業するため実施できない可能性が高いです。）

⑤ 海外旅行保険説明会（実施年度の5～6月頃）

SA 参加者が必須で加入する、大学指定の海外旅行保険の説明会をおこないます。

⑥ 危機管理ガイダンス（実施年度の7月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、

どのように対処すべきか等について、危機管理の観点から説明をおこないます。

⑦ 英文残高証明書（実施年度の4月頃から）

各国の入国管理局の指示により、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が **フォントボーン・UCD** の場合必要となります。これは留学中の支払能力を証明するもので、2023 年度は UCD 夏で€500 以上、UCD 秋 4 カ月で€2,800 以上、UCD 秋 7 カ月で€4,500 以上が必要となりました（証明書発行後の預金移動は制限されません）。詳しくは SA 説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

⑧ SA 費用の支払い（実施年度の7月頃）

各プログラムの SA 費用と奨学金について、それぞれ 5、6、10 ページに 2023 年度実績額を記載してあります。参加費用は為替レートや航空券代・燃油代の変動により、大きく変動しますので、余裕を持った資金準備をお願いします。SA 費用は、2 回に分けて納入いただきます（出発前の 7 月頃、出発後の 12 月頃）。保証人宛への 2 回目の費用請求をもって最終的な金額確定とさせていただきます。奨学金は所定の申請後にお振込、もしくは費用と相殺します。

⑨ 直前ミーティング

出発の約 2 週間頃前におこなわれるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA 出発に向けた最終案内をします。

University College Dublin

基本情報



【所在地】アイルランド ダブリン州ベルフィールド

【受入機関】UCD Applied Language Centre

【HP】<https://www.ucdela.com/>

【プログラム名】Academic English

※申込より前に、UCD が提供する簡単な英語試験を web にて受検いただきます。結果により、「General English」になる場合や参加ができない場合があります。

【対象】夏 期：英文学科の1年生以上

秋学期：英文学科の2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】夏 期：25名以内 秋学期：10名以内

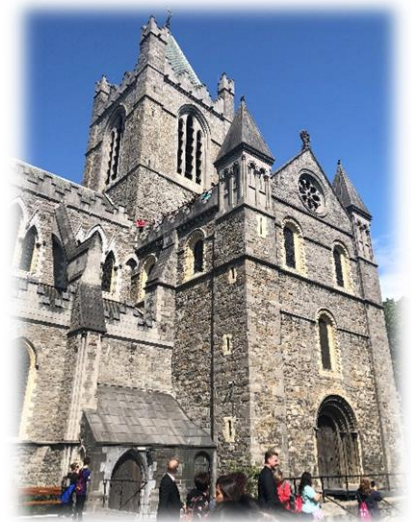
【留学予定期間】夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）

秋学期：①9月上旬～12月中旬（約4か月間）

②9月上旬～3月下旬（約7か月間）

（留学期間に変更になる場合があります。）

【宿泊施設】夏期は大学内の寮、秋学期はホームステイ



■大学概要

1854年に創設されたUCDは、アイルランドを代表する大学で、国際交流や留学生教育に豊富な経験を持っています。この優れた教育施設で、さまざまな国籍の学生と一緒に英語とアイルランド文化を学びます。UCDは、ダブリンの中心部からバスで15分ほどの静かな環境にあります。交通の便はよく、治安もとてもよい地域です。

■生活環境

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で30分も移動すれば、ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見

学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。



【夏期 SA プログラム】

■授業の内容と特色

授業は3週間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1クラスの人数は14名ほどで、UCD English Language Academy に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前9時から午後1時までの4時間が教室での学習時間です。

※今後変更になる場合があります。

■宿泊施設

参加学生はUCDのキャンパス内の学生寮となります。寮は一人部屋で、トイレ、シャワー、キッチン、リビングが共有となり、自炊です。キャンパスからは市内行きのバスが出ており、ダウンタウンにすぐに行くことができます。

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

【必要な費用】

①出発前までに必要

- ・ 航空運賃（燃油サーチャージ等含む）
- ・ 海外旅行保険料
- ・ 運営サポート料（旅行代理店）
- ・ 帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・ 授業料
- ・ 寮費
- ・ 空港送迎費

（参考）2023年度：費用合計 約62万円

②出発後に必要

- ・ 食費
- ・ 交通費
- ・ テキスト代等

【奨学金】

- ・ 文学部奨学金 支給（返還不要）

（参考）2023年度 1名あたり約10万円

※参加者人数により大きく変動します。

【秋学期 SA プログラム】

■授業の内容と特色

授業は約 4 か月間か約 7 か月間おこなわれます。はじめにプレースメントテストを受けた後に、クラス分けがおこなわれます。1 クラスの人数は 14 名ほどで、UCD English Language Academy に所属する教員が授業を担当します。月曜日から金曜日まで、午前または午後からの 4 時間が教室での学習時間です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング、文法、エッセイの書き方、プレゼンテーションと英語漬けになります。さらに、週に 2 日午後の時間に、IELTS 対策講座があります。帰国前には全員 IELTS を受験します。

※今後変更になる場合があります。

■宿泊施設

参加学生は UCD のキャンパス近くにホームステイします。

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA 期間中の法政大学の学費はこの SA 費用とは別に必要となりますので、注意してください。

【費用】(4 か月間の場合)

①出発前までに必要

- ・ 航空運賃（燃油サーチャージ等含む）
- ・ 海外旅行保険料
- ・ 運営サポート料（旅行代理店）
- ・ 帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・ 授業料
- ・ ホームステイ費
- ・ IELTS 受験料
- ・ 空港送迎費

（参考）2023 年度：費用合計 約 158 万円

②出発後に必要

- ・ 食費
- ・ 交通費
- ・ テキスト代等

【費用】(7 か月間の場合)

内訳は上記 4 か月間と同様。

（参考）2023 年度：費用合計 約 238 万円

【奨学金】

文学部奨学金と JASSO 奨学金(日本学生支援機構 ※採択された場合に限り)があります。いずれも返還不要です。

なお、JASSO に本プログラムが採択され、かつ対象者が採用された場合、毎月 8 万円支給されます。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。

（参考）2023 年度：(4 か月間の場合)

	JASSO	文学部	合計
JASSO 採用	32 万円	約 15 万円	約 47 万円
JASSO 不採用	0 円	約 35 万円	約 35 万円

（参考）2023 年度：(7 か月間の場合)

	JASSO	文学部	合計
JASSO 採用	72 万円	約 11 万円	約 83 万円
JASSO 不採用	0 円	約 59 万円	約 59 万円



2024 年度は募集していません。

■生活
フ
ンフ
りま
ツビ
どが

■不
き
パ
寮
シ
用
て
キ
ン
事

■費
ま
ま
願
費
で、

2024 年度は募集していません。

万円
(要)
万円
は、

University of Victoria

基本情報



- 【所在地】カナダ ブリティッシュコロンビア州ヴィクトリア
【受入機関】English Language Centre, Division of Continuing Studies, University of Victoria
【HP】 <https://continuingstudies.uvic.ca/>
【対象】2年生以上（応募は1年生以上）
【参加人数】10名以内
【留学予定期間】9月上旬～12月中旬（約4ヵ月間）
【宿泊施設】ホームステイ

■大学概要

世界的に知られている名門総合大学です。1903年に Victoria College として設立され、1963年に University of Victoria となりました。学生数は約2万人です。国際交流、留学生教育に関して豊富な経験を持つ優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら、英語と英語文化を学習します。ヴィクトリアはカナダのバンクーバーから飛行機で約30分の場所に位置しています。生活の便は良く、治安も良い場所です。

■生活環境

カナダ本土から少し離れたバンクーバー島にあるヴィクトリアは、英国風の建物も多く、おもむきのある街並みが特徴です。年間を通して温暖な気候のため、ガーデニングも盛んで、ガーデンシティと呼ばれるほど美しく、観光の町でもあります。ダウンタウンにはショッピングセンターもあり、さらに周囲を海に囲まれているためホエールウォッチングも有名です。

■授業の内容と特色

クラスは習熟度別に6段階に分かれ、授業は月曜から金曜まで一週間に30時間おこなわれます。少人数教育で、ヴィクトリア大学の語学センター（English Language Centre）に所属するイ

ンストラクターが、英語を母国語としない EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当します。プログラムの後半にはプレゼンテーションをメインとした授業があり、自分の力で英語での発表を準備するノウハウを学ぶことができます。



■宿泊施設

参加学生はヴィクトリアのキャンパス近くにホームステイします。

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA 期間中の法政大学の学費はこの SA 費用とは別に必要となりますので、注意してください。

【費用】（4 か月間の場合）

①出発前までに必要

- ・航空運賃(燃油サーチャージ等含む)
- ・海外旅行保険料
- ・運営サポート料（旅行代理店）
- ・帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・授業料
- ・ホームステイ費
- ・空港送迎費

（参考）2023 年度：費用合計 約 154 万円

②出発後に必要

- ・食費
- ・交通費
- ・テキスト代等

【奨学金】

文学部奨学金と JASSO 奨学金(日本学生支援機構 ※採択された場合に限る)があります。いずれも返還不要です。なお、JASSO に本プログラムが採択され、かつ対象者が採用された場合、毎月 8 万円支給されます。申請、支給方法については、別途ガイ

ダンスでお知らせします。

（参考）2023 年度：

	JASSO	文学部	合計
JASSO 採用	32 万円	約 13 万円	約 45 万円
JASSO 不採用	0 円	約 37 万円	約 37 万円

UC ダブリン大学・夏期 SA プログラム体験記①

2023 年度 UC ダブリン夏期

川俣 穂野香

SA に参加したきっかけは、アイルランド音楽に興味を持っていたことです。アイルランドの文化や歴史を肌で感じるとともに、新しい視野を得たいと思い留学を決めました。

私は寮に滞在し、ブラジル人のご夫婦、チリからの学生1人、そして法政大学の学生1人の計4人のフラットメイトと共に過ごしました。私はよくキッチンで料理をしていたのですが、その際に様々な国の人と交流することができたと思います。コインランドリーの使い方などについて説明してくれるフラットメイトもあり、優しい人が多かったです。

私は初級クラスの授業に参加したため、周りは日本人の学生がほとんどでした。授業は1限と2限のみで、教科書の文を読んだり単語について学んだりしました。それだけではなく、先生が重点的に発音の練習を教えてくださいましたため、発音に気を配るようになったと思います。日本で行われる英語の授業よりもディスカッションがかなり多く、授業内で英語を使わなければならないことも多かったため、英語を勉強するモチベーションが上がったと感じています。

午後は授業がなかったため、教会や公園などを観光していました。また、様々なパブに立ち寄り、アイリッシュ音楽の生演奏を聴いて回ることも多かったです。また、アイリッシュブラックファストやアイリッシュウイスキーなど、現地ならではの食事も楽しんでいました。土日はダブリン中心部から離れた場所へハイキングをしたり、ゴールウェイという違う町へ行ったりしました。パブや旅行先でも様々な国の人と話すことができ、とても楽しかったです。

SA プログラムに参加し、アイルランドの人の優しさと治安の良さに驚きました。そのような国で暮らす中で、毎日計画的に行動する力がついたと思います。また、食べたことのないものを食べたり、知らない人と英語でコミュニケーションを取ったりする中で新しいことに挑戦する姿勢も身についたと感じています。

初めての海外だったのですが、アイルランドに留学してよかったと思います。留学は視野を広げたり、勉強のモチベーションにつながるため、次年度参加される方にはアイルランド滞在を楽しみながら、多くのことを学んでほしいです。



UC ダブリン大学・夏期 SA プログラム体験記②

2023 年度 UC ダブリン夏期

今橋 丞未

私が SA プログラムに参加しようと思ったきっかけは、大学へ入学してから授業を通して英語圏の文化について学び、異文化理解や多様性の重要性を感じたため、実際に留学をして経験を積み、価値観を広げたいと考えたからです。

今回のプログラムでは参加した全員がそれぞれ一人部屋で生活をする形で、シャワーやトイレも各部屋に用意されており、週二回清掃の人が来てくれたため、寮全体の印象としては非常に清潔感があり、快適な環境で生活を送ることができました。部屋に関して何度かトラブルがありましたが、受付に常にスタッフの人がいるので、相談すると迅速に対応してくれます。また、寮内の共有キッチンスペースでは様々な国から来た人と交流する機会が多くあり、初めは挨拶を交わす程度でしたが、徐々に話せるようになり、一緒に食事をしたり、料理を振る舞ってくれたりするなど、英語での会話を通じて異文化に触れながら有意義な時間を過ごすことができました。

授業は午前中に行われ、比較的少人数で円になるように席が配置されていたため、発言しやすい雰囲気であり、先生や他の学生とのコミュニケーションが取りやすかったことが印象に残っています。私のクラスはほとんどが法政大学の人であったため、他の国から参加した人との交流が限られていたという部分は少し残念でしたが、授業は英語で進められ、発言を求められることが多いため、日本では体験できない充実した学びを得ることができました。

午後は自由な時間となるため、ソーシャルワークに参加したり、市内の方に出かけたりするなど自由に過ごすことができました。移動は主にバスを利用し、大学からダブリン市内へのアクセスがよいことに加えて、遅い時間まで運行しているため、前もって計画を立てることで授

業後の時間も有効活用して色々な場所を訪れたり、観光を楽しんだりすることができると思います。休日は一日中時間を使うことができるため、朝からアイリッシュブレックファーストを食べに行ったり、事前にチケットを予約してゲーリックフットボールというアイルランド発祥のスポーツを観戦しにいったりするなど、初めて経験する食べ物やスポーツに触れることができました。

この三週間の留学を通して、私は以前よりも英語を使ってコミュニケーションをとることを楽しいと思えるようになりました。それと同時に、自分の英語力のなさを実感し、現状を把握する機会にもなりました。そのため、今回得た学びを活かして今後の英語学習に繋げていきたいです。最後に、私は SA プログラムに参加して非常に貴重な経験をする事ができたと感じるため、迷っている方がいたらぜひ参加してほしいと思います。



UC ダブリン大学・秋学期 SA プログラム体験記①

2023 年度 UC ダブリン秋学期（4 か月）

佐藤 優衣子

コロナウイルスの影響で大学生活が制限されることが多かったですが、大学を卒業するまでに留学をしてみたいという気持ちがあり、SA プログラムに参加しました。また、憧れのヨーロッパで留学生活を送れることや、現地で取得した単位を法政大学の単位として認定してもらえることも魅力的でした。

長いフライトを終えダブリンに到着したとき、見知らぬ風景を見て、これからアイルランドで4か月間生活するという実感が湧き期待と不安でいっぱいになりました。ホストファミリーはファザー、マザー、子供が5人(上の3人は既に独立)、犬1匹、猫2匹の構成でした。また、9月にはスペイン人男子留学生も家に来ました。初めにマザーが家についての説明をしてくれましたが、英語のスピードが速すぎて1割も理解できていなかったと思います。ただ、毎日の夕飯時、様々な会話をしてくれたので少しずつ耳を慣らすことができました。食事はホストペアレンツとハウスメイトととることが多かったのですが、3人とも日本に興味があり、日本についての話をよくしました。いつか絶対に日本に遊びに行くからねと言ってくれてとても嬉しかったです。正直留学前は、食事が口に合わなかったらどうしよう、家族になじめなかったらどうしようなどと考えてしまい、ホストファミリーとの生活が一番不安でした。しかし、実際に生活してみると困っていることがないか聞いてくれたり、アイルランドの観光地を教えてくれたりと本当の親のように温かい家庭で生活することができました。

UCD では平日の午前中は授業を9時から13時まで受け、火、水は14時から16時まで IELTS の授業がありました。午前のクラスでは健康、災害、AI、建築、についてなど扱う内容は多岐にわたります。リーディングの授業では文章を読むことは勿論ですが、読んだ内容を要約しクラスメイトに伝えるという練習もしました。ライティングの授業ではどのようにパラグラフを構成するのかなど難しかったですが、先生が添削し、一対一でアドバイスをくれました。リスニングの授業では短い映像を見てクイズに答えたり、聞いた音声を分かりやすくノートにまとめたりする練習をしました。また、プレゼンが隔週であり、初めはとても緊張して先生からいく

つも問題点を指摘されましたが、最後のプレゼンではよく成長したねと褒めてもらえました。IELTS の授業では IELTS に向けた実践的な授業が行われました。非常に難しかったですが、ユニークな先生のもとで楽しく充実した授業を受けることができました。

休日は友人とシティに買い物へ行ったり、ダブリンからバスで2時間程度かかるゴールウェイに遊びにいったりしました。アイルランドは緑豊かでたくさん公園があり、リフレッシュすることができました。

アイルランド人はとてもフレンドリーです。迷子になっていたら道を調べて教えてくれたり、バスの中で「あなたの靴可愛いね」と声をかけられることもありました。バスは時間通りに来ませんし、冬は毎日のように雨が降り空気が落ち込むこともありましたが、アイルランド人のその温かさに日々助けられていました。

あっという間の4か月間でしたが日本と異なる文化に触れ英語力だけでなく価値観も変わり、留学してよかったと心から思います。そして次にホストファミリーと会うまでに英語力をさらに伸ばし、より一層会話を楽しみたいという新たな目標もできました。

これから参加される方は不安な気持ちも抱えていると思いますが、きっと楽しいことがたくさんあります。大学生の今しかできないこの経験をぜひ楽しんでください！



2023年度 ヴィクトリア
小林 大介

旅行好きな祖母に幼い頃から多様な場所へ連れて行ってもらった経験や、そんな祖母へ恩返しとして英語力を獲得し海外を案内したいという動機をもとに、単位取得と留学を両立できる点が魅力的だったため英文学科の SA プログラムに応募しました。

現地では、寡黙ながらも時々面白い冗談を言うホストファザー、そしてチャリングで料理上手なマザーのもとでホームステイをさせてもらっていました。非常に優しいファミリーで、休日にはダウンタウンやレストランに連れて行ってもらったり、一緒に庭を掃除したりしていました。SA 期間中は本当の家族かのような時間を過ごすことができました。国や人種、文化を超えて誰かと一緒に過ごすというのは発見が多いもので、今でも忘れられない思い出です。

ヴィクトリア大学での授業は、すべてのコマが英語力向上を目的としたプログラムになっています。ディスカッションや洋書の読解はもちろんのこと、プレゼンテーションや文法の解説など詳しい内容は多岐にわたります。授業そのものは週五日、半日のみですが、ワークショップやイベントなど英語力向上を図れる機会は他にも盛りだくさんです。日本人の学生は多いですが、それでもメキシコやサウジアラビアなどからやってきた学生も存在するため、日本人がいることによる安心感と多様なバックグラウンドを持つ人々との交流の機会を同時に獲得できる、非常に良い環境であると感じました。

観光について、ヴィクトリアがカナダの西海岸に存在する小さな島に位置しているためか、周りの学生からの評価は賛否両論でした。それでも、歴史柄イギリスの影響を受けた建物が多いこの街では、北米と欧州の雰囲気が混ざり合った非常にユニークな景色を見ることができます。自然も多く歩くだけで気持ちの良い場所でありながら、世界的な大都市であるバンクーバーへもすぐ訪れられるので、個人的には大満足でした。

一方、平日の生活は非常に規則的でした。私は午後のクラスに振り分けられたため、午前中には時間がありました。朝9～10時頃に起床し、前日の授業で出た課題をこなしたのちに昼食を取り、13時開始の授業の為に大学に向かう…といった毎日でした。

平日は大学で異文化に触れながら英語を学び、

休日は異国を観光して回る…という毎日は、今振り返るとあれはもしや夢だったのではないかとこのほど楽しく充実した日々でした。前述したように、多様なバックグラウンドを持つ人々との交流は新しい発見や楽しさで満ち満ちています。見るもの触れるものその全てが新鮮に感じられます。どの点を取っても、「参加してよかった」と胸を張って言う事ができるというのが、私の本プログラムに対する腹藏ない感想です。

さて、この文章をここまで読んだ皆さんは、多少なりとも SA プログラムへの興味を持っている方々でしょう。もしあなたが参加に際して英語力やコミュニケーション能力に関する不安を持っているのなら、ここで払拭させてください。行けば大体どうにかなります。初対面の人と話すのが大の苦手、英語でなんかもつてのほかというような状態でカナダへ向かった私が証人です。帰国後に TOEIC で 925 点を取り、現地で出来た韓国人の友達に会いに韓国に行ってしまうくらいには社交性と語学力を獲得できました。これが果たしてずっと続くかどうかは私にもわかりませんが、とにかく海外での生活は少なからずあなたの人生を楽しいものにします。旅立つ皆さんを応援しています。



ヴィクトリア大学・秋学期 SA プログラム体験記②

2023 年度 ヴィクトリア
竹野 和

私が SA 留学に参加した理由は、英語に触れることが好きで留学にあこがれていたことと、日本とは異なる文化を実際に体験したいと考えていたからです。

私のホームステイ先は、ホストマザー 1 人のみで、他のルームメイトもいなかったのが基本的には私とホストマザーの 2 人での生活でした。最初は一対一の関係に緊張を感じるが多かったですが、慣れてくると会話も 2 人で弾むようになり、よくテレビを見ながらおしゃべりをしました。そのおかげもあってか、英語力の上達を実感することができました。

授業は基本的に午前クラスと午後クラスに分かれていて、私は午前クラスだったので朝 8 時 30 分から昼頃までが授業時間でした。私のクラスでは、本を読んだり、文法について問題を解いたりすることももちろんありましたが、とにかくたくさんプレゼンテーションを行いました。一か月が過ぎたあたりからとにかく毎週毎週プレゼンテーションの課題に追われていました。大変な作業ではありましたが、自分の英語に自信がつき、人前に立つことに慣れることができました。グループプレゼンでは、そのグループメンバーとの絆を深めることができました。

ビクトリアは小さい街ではありますが、自然が豊かで動物がたくさんいます。小さい街のため、電車はありません。バスさえあれば基本的にどこへでも行くことができます。冬場はホッケーの試合が開催されるので多くの生徒が観戦に訪れていました。私自身、スポーツ観戦が初めての体験だったので、友達とともに楽しく過ごすことができました。またバンクーバーにもフェリーで片道一時間半ほどで行くことができ、フェリー代も高額ではないので簡単に訪れることができます。

私の一日のスケジュールは、朝 6 時半ごろに起床、7 時半ごろに家を出てバスに乗り学校に向かいます。ステイ先のお家の最寄りのバス停から大学までは 10 分程度しかかからず、かなり家から近い方でしたが、8 時半に大学につくような時間のバスだと、混雑していてバスはいくらバス停に待っている人がいても、スルーしてしまうので、私は早めに家を出ていました。そして何より、バスは基本的に時間通りには来ません。そのため時間に余裕を持った行動を心掛けていました。授業が終わってからは、昼食をとってから課題をした

り、時間があれば友達と学校の近くにあるビーチまで遊びに行ったりしました。課題の量はクラスによって違いますが、私は課題に常に追われている方だったと思います。

実際に SA で留学をしたことで、自分が想像していた何倍もの出来事を経験することができました。英語を学ぶことはもちろん、そこで体験したこと、出会った人たちも含め行かなければ出会うことがなかったですし、帰国が近づいてくると、帰りたくないと思えるほど多くの経験ができました。

留学はしたいけど不安だという方も多くいらっしゃると思いますが、行きたい気持ちが少しでもあるならぜひ思いっきり参加してみてください。人には人の体験があって、同じものは存在しないですから、ぜひ自分だけの体験、発見を見つけてください。



スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

■海外旅行総合保険

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

■24 時間対応の電話アシスタンスサービス

① 病気やケガの対応

現地で病気やケガの際には、現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者に、病院を紹介してもらうことになります。しかし、外出先や遠出をしている際に、思わぬ事故や病気、ケガに見舞われる可能性もあります。そのようなときに、直接フリーダイヤルに電話すれば、近くの病院を探してくれたり、適切なアドバイスを受けたりすることができます。

② トラブルの対応

留学中にトラブルに見舞われたり悩み事などがある場合、通常は現地大学の担当スタッフが相談にのります。日本語で直接相談する必要がある場合は、SA ポータルサイトを利用して法政大学（学科の SA 担当教員、国際交流課および文学部事務担当職員）に連絡をとることができ、緊急の際には 24 時間対応の電話アシスタンスサービスを利用できる体制をとっています。

■SA ポータルサイト

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、国際交流課に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがあります。そのようなときは、SA ポータルサイ

トにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期中、このポータルサイトを使用して、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行

届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

■グローバル育センター国際交流課

国際交流課は、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に SA に参加する学生をサポートします。それ以外の SA 全般にかかわることについても相談にのりますので、SA に関して、質問や相談があるときは、気軽においでください。

<問い合わせ>

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

(大内山校舎 2 階グローバル教育センター内)

Tel: 03-3264-9408 Fax: 03-3264-9256

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

■文学部担当

文学部担当では、事前指導、奨学金申請、単位認定手続き、出発後の英文学科生への連絡内容伝達（ゼミや卒論関係）、課題連絡・提出や帰国後報告会の案内・実施等を行います。何か困ったことや気になることがありましたら、気軽に文学部窓口あるいは大学付与のメールにてご相談ください。

<問い合わせ>

Tel: 03-3264-9324

窓口時間

月～金 9:00～17:00 (11:30～12:30 を除く)

土曜日 9:00～12:00

英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン

文学部 英文学科

【UCD 秋学期・フォントボン・ヴィクトリア参加者対象】

英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン

SA で取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

① 認定単位数

- 1) SA で取得した単位は、年度ごとに 22 単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、または ILAC 科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2) で規定された単位数と SA 先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として 2) で規定される単位数の 6 割程度】。

② 科目系列

- 1) 原則として選択必修 B 群の「SA 認定科目 (B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8 単位を上限として選択必修 A 群の「SA 認定科目 (A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修 A 群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。
注) 特段の理由がない場合は 4 単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修 C 群の「SA 認定単位 (C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修 C 群として認定されることがある。
- 4) ILAC 科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、SA 先で 4 技能 (reading, writing, speaking, listening) が連動した英語科目の単位を取得すること。

① 申請方法

- 1) 1st term 履修決定のころ (10 月頃)、文学部担当よりメールで送られる「単位認定申請書」にて申請する。シラバス、時間割もあわせて提出する。
- 2) 長期参加者は、2nd term 履修決定のころ (2 月頃) に 2nd term 分の「単位認定申請書」あるいは「授業報告書」(認定可能単位数をすでに 1st term で達した方のみ) にて申請、提出する。